

慶應義塾担当理事との会見について

会見について

副会長 東郷 秀光

会見を終わって

幹事 亀岡 敦子・談
私達日吉の住民にとって、

慶心の校舎を取り巻く森やグ

今後も、機会あるごとに話し合いか持てたならばと切に思いました。

田心つゝこと

幹事 白鶴 邦子・談

ランドは自然が豊に残る安らぎの場所です。また、市民に開かれた大学としての公開講座は、生涯学習の場として嬉しい存在です。

湯川理事と日吉キャンパスの地図を見ながら、日吉の自然や民家の場所、日吉台地下壕の所在を確認しましたが、

誠実で、前向きな理事の姿は、考えていました。遠い存在ではありません。しかしその忙しさのためか、会見が実現するまでに双方の日程の調整がつかず、九月初旬に申し入れていた会見の期日が三転、四転し、やっと実現したのが十一月に入つてからでした。

保存の会からこれまでの保存に向けての取り組みの状況を説明し、地下壕の入り口部分の土地の所有者

の意志を率直に伺い、その意志を慶心や横浜市、神奈川県に伝えていくことが、よい結果を生むのではないかと思いました。

この民家の方に地下壕保存の環境整備は、慶心の創立一五〇周年の事業の一環として考える」となるだ

うとのことです。

今回はじめて慶心の方との会見に参加して、私達にできることを積極的に実行していく

慶應義塾の湯川武理事との地下壕保存の会の会見が十一月八日午後に日吉の会議室で行われました。地下壕保存の会の側からは、鮫島重俊会長、東郷秀光副会長、亀岡敦子幹事、および白鶴邦子幹事が出席しました。当日は寺田貞治事務局長は地下壕を案内する予定になつていたため止むを得ず欠席しました。湯川理事は超人的な忙しさの中を実に快く会見に応じて下さり、感謝いたしております。しかしその忙しさのためか、会見が実現するまでに双方の日程の調整がつかず、九月初旬に申し入れていた会見の期日が三転、四転し、やっと実現したのが十一月に入つてからでした。

保存の会からこれまでの保存に向けての取り組みの状況を説明し、地下壕の入り口部分の土地の所有者

が保存の会の運動に理解を示して入り口部分を残した形で土地の売却を行つてくれていることを話した後、慶應義塾がその地権者である地下壕の部分を重要な史跡として保存して欲しいが、差し当たりは少なくとも再開発はしないで欲しい、との申し入れを行いました。湯川理事は保存の会の要望は承った、現在は慶應義塾創立百五十周年に向けて日吉のキャンパス構想を検討中なので、それとの関連で検討も行われることにならうとのことであった。保存の会はこれからも横浜市、神奈川県、文化庁に地下壕保存への働きかけを続けるが、その進展も曉みながらまた会見に応じて欲しきとの要望を伝えて約五〇分の会見を終りました。

理事のお話ですと、日吉キャンパスの環境整備は、慶心の創立一五〇周年の事業の一環として考える」となるだ

うとのことです。

今回はじめて慶心の方との会見に参加して、私達にできることを積極的に実行していく

うとのことです。

教職研修
日吉台地下壕案内記

谷藤 基夫

十月十八日（土）山梨学院大学の教職課程地学総合学習
「川崎・横浜研修」として十日間で吉田台地区の見学に
五十名の方々がバスで来ました。普段案内しませんが、喜田さんと
茂呂さんと寺田先生が見学に来られました。地下壕の事務局長の寺田先生
が、私達の病院で入院中の三人の患者の見学に来られました。

一等兵参謀の

空想平和博物館設立案

酒井 啓

本年三月末、市民グループ「赤れんが倉庫に平和博物館を——『ピースミュージアム よこはま（仮称）』実行委員会が設立され、その事務局会議に寺田貞治氏と出席しているのだが、報告かたがた何か書くようなどうことなので、現実と夢をとりまして綴つてみようと思う。

この構想は、横浜関内に残されている赤れんが倉庫（日本有数の産業遺跡）の一角を拠点に、日吉台地下壕など市内各地の戦争遺跡を分館としてネットワークさせた博物館が建設できれば理想的なのである。もちろん、赤れんが倉庫の本館には横浜大空襲や学

童謡開・戦没船舶・戦時日用品・米軍基地などの資料も展示・保管するはずなのである。

けれども実行委員会が自力で博物館を建設する能力はない。そこで、横浜市に主体的に建設してもらおうと、横浜市長宛に博物館建設に関する要望書を複数回提出している

のだが、大きな行政組織が相手なだけに、平和博物館の建設はなんて難しいのだろうと思つた。

また、実行委員会主催で、文化人による講演会を中心とした「公開講座」を複数回開催したけれども、受講者は失礼ながら中高年者ばかりで、戦争体験者が多かった。このことによる利点は存在するけれども、次の世代への戦争体験的知識の相続は困難である。つまり、博物館建設へ向けての世論形成には、重大な弱点

が生じている。

それから、博物館建設に関して最も重要なことは、博物館理念だが、実行委員会メンバーは、博物館学・博物館論に疎い人達ばかり。そこで、

まあさり始めていた自分に、博物館学関係の文献を多少読みあさり始めた自分に、

事務局会議での参考的役割がまわってきた。だから、博物館建設に関する要望書文面には、研究・教育のセンターとしての機能や、市民研究室・図書室の設置を盛り込んだりした。

さらに、参謀としての教養強化のために、有能な博物館学専門家に個人的に相談して、斬新な助言を頂いたりした。

ただ、自分が博物館参謀としてまだ頼りない存在であり、尉官未満であることも自覚した。たとえば、関西や関東にある複数の博物館に対

して、博物館建設に関する、

かなり程度の低い質問状を送付して、ことごとく相手にされなかつた体験などで、自分が二等兵から上等兵（ぐらい）で

あることを理解したのである。だが、もうすぐ新年をむかえことだから、日本経済などの暗い話はやめて、二等兵参謀には、大将になつた夢でも見させてもらうことにしよう。

まず、妄想横浜近現代戦争総合博物館の規模だが、延床面積九六〇〇坪（赤れんが倉庫全域相当）程度は確保した

次に、博物館運営主体は、公立財團にする。ただし、博物館運営の自主性は強固に確保する。博物館理念は、関東地方（中部地方範囲での戦争関係資料・戦争遺跡の収集・調査研究をおこない、調査結



果を教育普及することにしておこう。横浜市内の戦争遺跡は、本土決戦体制下では他の戦争遺跡と広範囲で関連していたから。

それから、機構・人事・名
誉博物館長（顧問）は、現代

面に大活躍した。一九七〇年代から活発な博物館運動を行ない、最近まで大阪千里にある空想国立民族学博物館の名館長をしていた。竹竿氏には、博物館行政への威力を發揮してもらう。

なに竹竿忠夫など知らないい？ そんなことも知らないい？ 非国民は、平凡社『知的市民と博物館』『博物館の思想』中公新書『博物館と美術館』でも読んでもおぐがよい。

そして、館長・副館長（企画研究課長兼任）は、「和幹仁彦」氏と「及川末茶彦」氏。彼らには、最低七年間は勤務

彼らのことが分からぬなら、樹花舎『博物館と「表現の不自由」』でも読んでおけばよからう。

副館長以下の機構・学芸員人事は、館長・副館長に完全にまかせてしまおう。

博物館紀要是、○○研究という名前にして展望・論説・短報などの構成をもち、学会機関誌的にする。もちろん、他博物館職員・大学教官・学生・一般市民も投稿可能だ。全国範囲での話題提供も可能だ。また、博物館主催で年数回のシンポジウム・研究発表会を開催して紀要の記事にする。ただし、研究調査論文に関しては、査読制度を導入して、質の維持・向上をはかる。ほかには、博物館主催で一

般市民向けの公開講座を開催し、戦争遺跡の案内も行う。また、市民が学芸員に相談可能な市民研究室を設置し、図書を自由に利用してもらう。一方で、特別研究生制度を設置し、郷土史家クラスの準専門家の養成・教育・援助を行なう。これでは小さな大学だ。自立した準専門家の市民をどんどん輩出するのだ。

日吉地下壕

田元学・△△誠・相心文

一月八日慶應生協学生
委員会による地下壕見学会

★戦争をまのあたりに見た気がする。時代を感じた。

★長靴の必要を痛感した。腰

中電燈がこんなに役立つとは!
地下が明るければ仕事はできる

だろうが、長期間、多人数で滞在すればストレスがたま

る。戦時中はプライバシーもなかつたと思うが、多くの人に知つてもらうよう、ホ

ームページをつくつては?

★日吉の地下にあのような広い空間が存在していたことに驚いた。ただあの空間に田日本軍がいたとは想像できなかつた。私有地を通らないで地下壕に入れるようにし、壕内を当時の状態に復元し、一般

の人見てもらうべきだ。

★地下壕に住む虫や鍾乳石に驚いた。当時の通信機などが残つていたら見たかった。作戦会議室の写真などはもう少し公開して欲しい。

★こんな地下壕を造つてまで戦争を継続しようとした日本軍の執念を感じた。

★五〇年以上がたち、マスメディアで取り上げられることが少なくなり、忘れかけていた戦争をまた考えさせられた。

★途中に弥生時代の住居址などがある。日吉に遺跡巡りの散歩道ができるとよい。

★思つていた以上に広かつた。日吉に下宿しているが、地下に歴史ある壕があり、戦時中に空爆があつたとは信じられない。もつと詳しく自分で調べてみたい。安全面を考慮して、保存すべきであり、その歴史的背景も伝えていかなければならぬと思う。

ればならないと思う。

★普通部や矢上キャンパスの地下壕も見たいと思った。専用の出入口があれば多くの人に地下壕を知つてもらえる。

★五〇年前の地下壕のしつかりした構造や、風通し、地上からの電力の供給が切れる事まで考慮しているのに驚いた

が、間違つた戦争のためと考えると感心してはいられない。

★この機会に平和と戦争の事を少しは考えてみたい。

★地下に大きな壕を造らなければいけない戦争、殺し合いとは、一体どれほどのものなんだろう。そんなにまでして勝ちたかった気持ちつて何だろう。私は一生分からないような気がする。整備は雰囲気が変つてしまわない程度に。

★実際に中に入つて、規模の大きさに驚きました。日吉に下宿しているので、自分の住

んでいる町にこんな大規模な地下基地があつたとは、実感がわいてきません。

★地下壕を中心とした日吉地区全体が重要な戦争遺跡であり、県、市、及び国は早急にこの遺跡を整備し、保存すべきであると感じた。太平洋戦争を肌で感じることのできる数少ない遺跡であることは確かで、広く一般に公開していくことが重要である。この真

上で学習している慶大生として、この遺跡に対し、日吉に對して、その歴史を知らずに生活している学生の多いことは非常に残念である。中

の泥を取り除き、鍾乳石は保存、内部構造を再現し、一般に広く公開する。戦争博物館として、慶大または自治体で

整備・保存していくべきと考える。

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の
思い出話 22

終戦前後 一

軍関係の方々に伺います。

（ききて・寺田貞治）

★増井潔氏・元海軍軍令部第

三部

終戦前後、軍は日茶苦茶で
あり、マッカーサー元帥が厚

木に来る時は大変であった。

厚木航空隊は実松氏と同期の

小国大佐が司令官をしていた

が、終戦の詔勅を天皇の側近

が作つたというので従わず、

ピラを撤いて抵抗の姿勢を示

した。中央では「これはいか

ん。制圧しなければ」と横須

賀警備隊を出動させた。隊長

は鹿島出身の石原成蔵大尉で、

サイドカーで乗込み、多少の

銃撃戦はあったが何とか無事
に話をつけた。私が終戦を聞いたのは海軍
の築地の水路部であった。第
三部で作成した情報は、水路
部に印刷を頼んでいたので、
時々出かけていた。昭和20
年の初め頃、印刷を速やかに
やりたいというので、水路部
の一部が日吉に移つた。医学
部の予科の校舎（現第二校舎
・一般教養理科棟）の北側の
バラックに入った。終戦を聞いて、直ちに日吉
に戻り、地下壕に入り、収集
した情報書類をはじめ、全て
の書類を壕の南側の出入口の
所で焼却した。★野口昭二氏・元連合艦隊司
令部暗号科八月十五日、寄宿舎前の広
場に司令部の全員が集まり、
玉音放送を聞いたあと、小沢
長官の訓示があつた。このあと、私は残務整理で
東京の朝日ビルの二階に二週
間止められたのち、横須賀の

載

（生協ニュース教職員版第四
三、四六、四七号より抜粋転
載）昭和20年8月15日、寄
宿舎の前の広場に連合艦隊の
人達が集められたが、大勢い
たのには驚いた。地下壕にあつた秘密書類な
どを処分したり、生活に使え
そうなものを持出したりして
いるのを見た。食糧の他、地
下足袋などもあつた。戦後、海軍総隊（連合艦隊
も含む）は、九月に日暮の海
軍大学校に移つた。私は復員
局に残つてくれと言われたが、
一一月二二日に除隊して家に
帰つた。その後、久里浜の通信学校
に戻り、三日に一回暗号を訳
した。将校のすぐ隣りの部屋
で待遇もよく一年近くいた。
六二期生の一人が「家に帰
りたいと将校に申し立てたた
め「こんなに良くしてあげて
いるのに何が不服か」という
ことで、全員依頼免官になつ
て追い出された。六人のうち
私をはじめ三人はまだ残りた
かった。昭和二二年の冬のこ
とである。このあと、私は残務整理で
東京の朝日ビルの二階に二週
間止められたのち、横須賀の
鎮守府にいき、三笠会館で残
務整理をした。仕事は何もや
ることがなかつた。たまに電
報が來るので翻訳する程度で

幹事会△云報生口第四回
九月一〇日午後六時半
日吉地区センター
報告

一、八月一七日藤沢市百日間
事業委員会による見学会約二〇名参加

二、同日横浜市政研究会による見学会六名参加。茂呂幹事案内

三、同一九日綱島地区町内会長による見学会約二〇名参加

四、同二六日TV朝日トウナイト2「監督が探検・東京の意外な穴」ビデオ撮り。同二八日放映

五、同二七日ピース・ミュー
ジアム・よこはま事務局会議に参加

六、同二八日冊子「太平洋戦争と慶應義塾」発行

七、同日全国学校労働者連絡会による見学会一四名参加。茂呂幹事案内

八、同二八・三一日平和のための戦争展かながわ'97、鎌倉芸術館ギャラリーで開催

九、九月一〇日第四回幹事会議事

◆冊子「太平洋戦争と慶應義塾」の贈呈・販売について
原価・千冊、税込み四二万円
著者(講演者)・一〇部宛
贈呈・交換・一五〇部
販売・会員五〇〇円送料別
非会員六〇〇円送料別
現在までに大口二〇〇部、小口一〇〇部程度を販売済
「希望の方は白鶴幹事まで、葉書でお申し込み下さい。

二二三横浜市港北区下田町117-4 白鶴邦子

500+280=770円

幹事会△云報生口第五回
六、同三一日矢上小六年児童生徒二七名参加

七、一一月五日日吉キャンパス基本計画委員会幹事会メンバーの福山欣司助教授と寺田方・調査法などを学んだ

幹事会△云報生口第六回
一一月一九日午後六時半
日吉地区センター
報告

一、九月二二日南日吉小P.Tによる見学会二三二名参加

二、一〇月三日矢上小P.Tによる見学会三八名参加

三、同八日第五回幹事会

四、同一八日山梨学院大十菱ゼミによる見学会先生六、学生四二名参加

五、同二二日日吉キャンパス研究環境基本計画委員会主催の講演会「創造的研究環境を求めて欧と米のオフィスの歴史を探る」に出席

六、同三一日矢上小六年児童生徒二七名参加

七、一一月五日日吉キャンパス基本計画委員会幹事会メンバーの福山欣司助教授と寺田方・調査法などを学んだ

八、同八日慶大日吉担当の常任理事湯川武教授と較島、東郷、亀岡、白鶴が会談

九、同日慶大生協学生委員会による見学会二三二名参加

一〇、同一四日矢上小六年の「地下壕について」の研究授業を参観

一一、同一九日第六回幹事会議事

◆会報四四号の発行
一二月一七日発行・発送予定

◆総会にむけて
議案書の原案を亀岡が考える◆その他

*第六回横浜・川崎平和のための戦争展の準備会を一月三〇日に予定

*製作済の地下壕見学会案内に予定

用ビデオの試写を次回幹事会に予定

●学習会
保存の会のあり方・調査法など、再度酒井幹事を中心に学習した